

# 世田谷区のコミュニティサイクル<sup>\*</sup>『がやリン』の取組み

## 一 自転車放置防止と区内交通を補完するための試み

世田谷区役所 交通安全自転車課

世田谷区では、国内でも先駆けて「コミュニティサイクル」を平成 19 年から本格的に導入し、区内の鉄道駅間の移動の利便性を高めるとともに、不法駐輪の削減、自転車走行空間の整備、環境負荷低減に取り組んでいます。平成 22 年 3 月には、2カ所のサイクルポートの屋根に太陽光パネルを設置し、3ヶ所計 100 台の電動アシスト付自転車を導入することで、さらに利用者の利便性向上、環境への配慮を進めています。

<sup>\*</sup>コミュニティサイクル：一定のエリア内に複数の貸出場所があり、利用者はどこでも借りて、返すことができるシステム。

### 1. 経緯

世田谷区は、公共交通による南北方向の移動の利便性が低く、住居系の多い区内での買物や通勤などの自転車利用が多く、都市交通手段としての自転車が不可欠となっています。また、駅周辺での放置自転車削減、走行空間の確保の促進が課題となっています。平成 13 年に策定した「世田谷区自転車等の利用に関する総合計画」の中で、レンタサイクル事業を放置対策だけでなく、区内の公共交通の補完的役割を担うようコミュニティサイクル導入の提案を受け、平成 17 年度に『コミュニティサイクル社会実験』を実施しました。この社会実験にあわせて、社会実験の周知のための PR・社会実験参加者の募集・マップの配布、アンケート実施、自転車利用マナーの啓発などを行い、コミュニティサイクルの利用促進を行いました。

実験結果を踏まえて、平成 19 年 3 月より 2ヶ所のレンタサイクルポートでコミュニティサイクルを開始、現在（平成 22 年 5 月時点）は、3ヶ所にポートを駅周辺に設置しており、約 840 台の自転車が用意されています。利用している自転車は、当初、放置自転車を再整備し活用していましたが、平成 20 年度からは一部新車を導入、さらに平成 21 年度には、電動アシスト自転車 100 台を導入し、ソーラーパネルで発電・蓄電した電力によってバッテリーの充電を行うシステムを構築しました。

### 2. 利用料金・管理システム

利用者は、事前登録をした上で、1ヶ月 2,000 円、1回 200 円で利用することができます（電動アシストは日ぎめ利用のみで1回 300 円）。自転車に設置した RFID タグと利用者が所持するカード（IC カード）により、ゲート通過時に入出庫の管理を行うシステムを導入しています。このことにより貸出状況の把握が正確になり、置き去りや長期無断利用などの不適切な使用に対処することができるようになっています。なお、カード保持者はレンタサイクルポートの 24 時間（電動アシストは 12 時間）利用が可能となっています。

### 3. 利用状況・導入効果

コミュニティサイクルの導入により、京王線、小田急線、田園都市線を南北の移動が便利になりました。現在、3カ所のポートでは、設置自転車台数約 840 台に対し、1日約 1,170 名の利用があり、通勤・通学での利用が主となっています。コミュニティサイクルの相互利用率は、ポートによって差はありますが、約 1 割程度です。今後は、ポートの増設も含めて、より区内移動の利便性を高めるための展開を検討していきます。



コミュニティサイクルシステムにより、南北の移動が容易になった。



自転車RFIDタグ

各自転車にタグ番号があり、ゲート通過時にデータが読み込まれ、貸出・返却時間や利用者の判別ができる。



桜新町レンタサイクルポート。中央の屋根付の設備の上部に、ソーラーパネルを設置している。手前がゲートで貸出・返却時にカードを読取器にあて、バーを押して通過する。